

令和２年度 学校評価自己評価書（豊山町立志水小学校）

経営理念	学校教育目標 … 力いっぱいがんばる子の育成
	めざす児童像 … 進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子
	めざす教職員像 … 子どもを大切にする教職員 学び続ける教職員 協働する教職員

資料1

【評価基準】 4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった								
経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子（確かな学力）の育成	・学習習慣の確立と基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・自己教育力を培う役割を担う学校図書館の活用	1	日置 森山 林	① 授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫する。 ② 個に応じた家庭学習の習慣づけを行う。 ③ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導をする。 ④ 朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本を読むように指導する。 ⑤ 調べ学習等で、図書室や学習室にある本を活用した指導を行う。	① 授業や朝の学習タイムでの反復練習の指導を工夫したか。 ② 家庭学習の習慣づけができたか。 ③ 漢字・計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、個に応じた指導を行ったか。 ④ 朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本を読むように指導したか。 ⑤ 調べ学習等で、図書室や学習室にある本を活用するように指導したか。	児童 ① 3. 4 ② 3. 4 ③ 3. 4 ④ 3. 2 ⑤ 2. 5 保護者 ① 3. 2 ② 2. 8 ③ 2. 8 ④ 3. 0 職員 ① 3. 2 ② 3. 0 ③ 3. 3 ④ 3. 5 ⑤ 2. 8	おおむね、基礎学力の定着に向けて、反復練習や朝学習、宿題に取り組んでいる。 家庭学習については、児童は「進んで取り組むことができた」、教員は「学習習慣を確立させるために、家庭学習の量や内容を見直し、必要に応じて改善した」と回答しているが、約3割の保護者は宿題を「進んで取り組んでいない」と感じていることが分かる。 漢字・計算コンクールに向けて、ほとんどの児童が頑張っており組んでいることが分かる。約3割の保護者は、「児童が熱心に練習をしていない」と回答しているが、教員は繰り返し問題に取り組ませるなどして子どもに達成感を味わわせることができるよう、個に応じた指導を工夫している。 朝学習や読書週間を通して、たくさんの本を読むことはできている。今年度は感染症拡大防止対策のため図書室で調べる活動が制限され活動があまりできていない。	反復練習や朝学習や宿題の内容や量について、学級間・学年間で意見交換をすることでよりよい指導につながると考えられる。 調べ学習について、図書室や学習室にある本等の紙媒体とタブレット端末等の電子媒体それぞれの長所を生かし、意図的・効果的に活用させる指導法を工夫する。
	・「聴き合い、学び合う」活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業展開	2	後藤 古谷 鷺澤	① 様々な教科で、導入や課題の設定、授業展開の仕方を工夫し、児童が「学びたい」と思い、主体的な学習に繋がるように、日々の授業で意識して実践を行う。 ② 少人数のグループ隊形を活用し、いつでも分からないことを聴いたり、考えを聴き合ったりできるようにして、「分からない」と自然に言える学級作りをする。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聴き方などを話型として例示する工夫をして、活発に学習が進む支援をする。 ④ 「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒める。	① 導入や課題の設定、授業展開の仕方を工夫して、実践をすることができたか。 ② 分からないことを聴いたり、考えを聴き合ったりさせることができたか。 ③ ペア学習やグループ学習において、考えの伝え方・聞き方・つなぎ方について発達段階に応じた工夫を行えたか。 ④ 「学び合っていること」や「寄り添って一緒に考えていること」を褒めることができたか。	児童 ② 3. 3 ② 3. 4 ③ 3. 7 ③ 3. 5 職員 ①② 2. 8 ③ 2. 6 ④ 2. 9	児童アンケートから、「聴き合い、学び合う」活動は児童にとって有意義な取組として実感できているため、引き続き行っていくとよい。 「分からない」と聞きやすい雰囲気づくりを大切にし、人間関係を大切にする必要がある。 本年度は、学校公開が実施できなかったため、保護者アンケートは行っていない。 ホームページや学年便りなどで、学校での取組についてねらいや目的、方法を周知していけるとよい。 教員アンケートでは、本年度も各自の評価が低かった。	「聴き合い、学び合う」活動によって一人一人の理解がどの程度深まったのか各自の振り返りを通して教師が確かめていく必要がある。 「考えの伝え方・聴き方」の話型の工夫を学校全体として、取り組んでいきたい。実践例やジャンプの課題の例などの情報を共有するとよい。 「学び合い」の位置づけについては、単元全体だけでなく本時での位置づけも明確にしていけるとよい。
	・タブレット端末を活用したプログラミング的思考の育成	3	佐藤 中川 鷺澤	① プログラミングについての校外研修に参加した研修者に校内研修の場を設定してもらい、他の教員は必要に応じて参加する。 ② 校内研修や「教員研修の手引」P. 1～2を参考にして、各学年に応じたプログラミング的思考の育成を意識した授業を行う。 ③ 5年生算数と6年生理科でプログラミングの授業実践を行う。 ※ R3に年間計画を作成し、R4から年間計画に基づいて、全担任がプログラミング教育の授業を行うようになる	① 各学年に応じた、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行うことができたか。 ② 5年生算数、6年生理科で、プログラミングの授業実践を行うことができたか。	職員 ① 2. 8 ③ 3. 4	職員のアンケート結果から、プログラミング的思考の育成を目指した授業実践をしようとする意識が高まったことが分かった。また、今年度は全学年でプログラミング教育の出前授業を行うことができ、それぞれの学年に応じた内容でタブレット端末を利用したプログラミングを体験することができた。	来年度は、プログラミング教育の年間指導計画を作成し、計画的に様々な教科で授業実践を積み重ね、次年度につなげていく。
○仲よく助け合う子（豊かな心）の育成	・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実 ※自我関与させる発問の工夫 ※道徳的成長を見取った評価	4	内藤 辻 角	① 道徳科の授業研修や教師間の授業公開により、教師が、問題解決的な視点に基づいて授業を組み立てる力を高める。 ② 道徳科の授業を体験的な活動（行事や教科）と関連付けて計画・実施する。 ③ 道徳科の授業における学び合いを通じて、児童が多面的・多角的に物事を考えることができたかどうかを検証する。 ④ 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。	① 道徳科の授業を計画的に行うことができたか。また、発問や展開の工夫をすることができたか。 ② 児童が、道徳科の授業に、体験的な活動と道徳的価値とを関連させて考えることができたか。 ③ 道徳科の授業における学び合いを通じて、児童が多面的・多角的に物事を考えることができたか。 ④ 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を道徳ファイルを活用して把握し、指導に生かすことができたか。	児童 ② 3. 5 ③ 3. 6 ③ 3. 5 職員 ① 2. 8 ② 2. 9 ③ 2. 9 ④ 3. 2	道徳の授業を公開し合う機会がなかなかもてていない。他の教科と関連付けて計画的に行った部分もあるが、行事などの関連付けはコロナの影響で難しかった。 コロナの影響で休校明けの前半は話し合い活動ができなかった。低学年、中学年は役割演技をしやすいが、高学年はなかなか取り入れることができていない。各学年の教材に合った指導の工夫が必要である。 道徳ファイルはきちんと蓄積できているが、変容を見取ことはなかなか難しい。	児童の発言をある程度予想した上で授業を展開し、どんな発言があったにせよ切り替えて児童の発言を広げることのできる教員の技能向上が求められる。 蓄積した道徳ファイルを効果的に活用し、同じ内容項目について計画的に実施することが変容を見取る方法の一つだと感じる。
	・気持ちのよいあいさつ、返事の励行 ・思いやりや感謝の心、自己有用感を育む児童主体の体験活動の実施 ※児童会活動や縦割り班活動の充実 ・児童の心に寄り添った多様な教育相談活動の実施	5	藤井 辻 廣下	① 代表委員会のメンバーで『学校見守り隊』を結成し、月2回程度、挨拶運動を行う。また、全校児童が挨拶運動に参加できるように『あいさつやってみ隊』を募集する。 ② 学校外で保護者や地域の方にも挨拶ができるよう、学級・学年で指導をする。 ③ 児童会主催の集会を設け、「企画運営委員会」で企画・運営を行う。必要に応じて代表委員会に協力を呼びかけ、集会を進行する。 ※チャレラン大会（7月）…各クラスで運営し、交流を深める。 ※運動会の応援合戦（11月）…児童会・6年生が中心となって運動会を盛り上げる。 ※クリスマス集会（12月）…会場の飾り付けやゲーム等の進行をする。 ④ 縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、縦のつながりを深め、思いやりや感謝の気持ち、自己有用感を育む。 ⑤ いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談の実施やあのねボックスの設置による児童の実態把握によって、こころの健康の増進を図り、安心して生活できる学校づくりに努める。 ⑥ 担任は、1日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをする。担任以外は、あいさつ等を通して児童とコミュニケーションを取る。児童の良いところを積極的に教員同士で伝え合う。	① 児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ② 集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ③ 児童が安心して学校生活を送ることができたか。	児童 ① 3. 6 ② 3. 6 ③ 3. 5 保護者 ① 3. 1 ③ 3. 2 職員 ① 3. 3 ③ 3. 6 ③ 3. 1	児童アンケートでは3. 6と多くの児童が進んであいさつできていると感じているのに対し、保護者アンケートでは3. 1と結果に差がある。校内ではあいさつができていても、保護者や地域の方には十分伝わっていないことが考えられる。 今年度は縦割りでの活動が十分行えなかったが、児童は楽しいと感じているようである。 児童アンケートでは、今年も9割近い児童が「相談できる人がいる」と回答している。先生方が学級の1人1人と毎日コミュニケーションを取り、何か問題があればすぐに対応しているからこそその結果だと思われる。	今後は、相手の目を見てあいさつするなど、より具体的に指導をしていく。 高学年の児童が成長していくためにも、感染症対策をした上で行える縦割り活動を工夫し実施する。 自分の学級・学年、部活や委員会に関わる多くの児童の名前と顔を一致させることが必要ではないかと思う。児童も普段あまり接する機会のない先生から名前でもらえれば、「自分のことを知ってくれているのだ」と安心感が高まる。今後も迅速な解決以上に未然防止を心がけて児童と接していけるとよい。
○元気でたくましい子（健やかな体）	・いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応							

【評価基準】 4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった									
経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて	
○元気でたくましい子 (健やかな体)	・健康な生活習慣づくりと食育の推進 ・体育的な行事・活動の充実	6	宮外 伏見 森下	① アンケートを実施し、自分の特性を知り、考え方や行動を変えることにより、レジリエンスの向上を図る。 ② 元気アップカードを実施し、規則正しい生活習慣とバランスの取れた朝ごはんの定着を図る。 ③ 志水っ子ランニングでは、ランニングカードを活用し、運動への意欲を高めたり、体力の向上を図ったりする。 ④ なわとび運動では、なわとびカードを活用し、目標を意識して運動に意欲的に取り組めるようにする。	① 自分の特性を知り、レジリエンスを高めることができたか。 ② 元気アップカード（朝ごはん含む）や食育指導を通して、バランスよく食事をとることができたか。 ③ 志水っ子ランニングに進んで取り組むことができたか。 ④ なわとび運動に、目標を意識して取り組むことができたか。	児童 ① 3. 4 ② 3. 4 ④ 3. 3 保護者 ① 3. 1 ② 3. 3 ④ 3. 4 職員 ① 2. 2 ② 3. 1 ④ 2. 9	4年生以上に、レジリエンスに関わるアンケートを行った。学期に1回、養護教諭が「考え方の癖」「サポーター探し」等の指導を行い、2回目のアンケートで数値が上がった児童もいた。 保護者アンケートでは、レジリエンスについて話をしたと答えたのが31％であり、保護者への働きかけが足りなかった。 今年度は、新型コロナウイルスの影響で、食育の指導がしにくい環境であったが、86％の児童がバランスよく朝ごはんを食べることができていると答えた。しかし、保護者アンケートでは72％と差があった。 志水っ子ランニングは、1月15日から2月26日までを実施期間とし、ランニングがんばりカードに継続的に取り組ませている。全校児童の92％が2枚以上のがんばりカードに進んでおり、3枚以上クリアした35名が体育委員会より表彰された。 なわとび運動に対して、児童の83％ができたと回答した。一方で保護者アンケートでは31％が「あまり」「ぜんぜん」と回答している。体育や休み期間に継続して取り組んでおり、なわとび名人が25名となった。	児童には自分の考え方や特性を知らせるために「元気・しなやか・へこたれない志水っ子への道カード」でレジリエンスのアンケート結果を配付した。今後は、保護者と児童が一緒に取り組めるような働きかけをしていきたい。 バランスのよい朝ごはんとはどのようなものなのかを具体的に児童に説明していく必要がある。 志水っ子ランニングやなわとび運動は、感染症に負けないからだ作りのためにも大切にしたい活動である。来年度も、がんばりカードを工夫するなどして、志水タイムでの運動だけでなく継続して取り組ませていく。	
○開かれた信頼される 学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティーチャーの意図的・計画的な活用と教育的効果の検証	7	教頭 折戸	① 教科の学習内容に沿った出前講座やボランティアを活用するよう計画を立てる。 ② 必要に応じて、家庭や地域からボランティアの人材を募集する。 ③ 事前打合せを行い、本時のねらいを明確にしておく。 ④ 活用したゲストティーチャーによる出前授業は、事後の評価をし、次年度への記録を残す。	① 地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーを活用することにより、学習内容の充実が図れたか。 ② 必要に応じて、家庭や地域に向けて募集案内をしたか。 ③ 本時のねらいが明確であったか。 ④ 事後評価し、次年度に向けて記録を残したか。	児童 ① 3. 6 職員 ① 2. 8 ② 2. 2 ③ 2. 5 ④ 2. 2	今年度は、感染症拡大防止対策のため、外部講師を招いての出前講座を実施することが難しかった。 児童は、出前講座等を受け学習が深まったと感じている。 【出前講座】 1～3年（読み聞かせ）、3年（自転車教室・人権教室）、4年（七宝焼き体験）、4・6年（福祉実践教室）、3・5年（スマホ安全教室）、5・6年（保護者による仕事の話）、6年（薬物乱用防止教室）、全学年（読み聞かせ・どんぐり読書会・プログラミング教室）	来年度も感染症拡大防止対策をとる必要があり、実施方法を工夫する必要がある。 今年度中止となった出前講座等についても、教育課程の中で有用性のあるものについては実施していきたい。	
	・家庭や地域の声を生かした有効な学校評価の実施と学校改善 ・学校公開の充実とホームページ、各種たよりを活用した情報発信	8	教頭	① 前年度実施アンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標・重点目標に基づき、班ごとの取組を計画的に行う。 ② 自己評価書を公表し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ③ 地域や保護者の方が学校を訪れる機会を計画的に設けるとともに、必要に応じて授業の様子を公開する。 ④ 学年便りや保健便りを月1回、生徒指導部や体育部からも必要に応じて便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。	① 学校評価の取組を計画的に行い、学校教育目標・重点目標に基づいた「具体的な取組」について実践することができたか。 ② 全職員で具体的に検討して、自己評価書をまとめることができたか。 ③ 地域や保護者の方に、学校公開を行うことができたか。 ④ ホームページや便りを活用し、学校の取組や児童の様子を知らせることができたか。	保護者 ① 3. 2 ③ 1. 9 職員 ① 3. 1 ② 2. 9 ④ 3. 3 ④ 3. 4	各種便りや学校新聞、ホームページ等を通して、子どもの様子や学校の取組を発信することができた。 重点目標や具体的な取組を意識して教育活動に取り組んでいると回答した職員は昨年度より増えている。 ホームページで「学校評価自己評価書」を読んでいる保護者は約3割であった。本年度は、PTA総会・学年懇談会が中止となったため、保護者に本校の教育目標及び重点目標を直接伝えることができなかった。	学級経営案を作成するにあたり、重点目標に基づいた「具体的な取組」について意見交流を図る。年度始めの学年懇談会で保護者に学校・学年の重点目標を伝えるだけでなく、学年便りを通して、教育活動に合わせた具体的な取組を知らせ協力を呼びかける。更に、学期ごとに学級経営について振り返り、次学期に向けての方針・改善点を考える。	
○教職員の資質向上	・OJTによる効果的・効率的な研修 ・現職研修の充実と教員同士の授業参観による主体的交流	9	鷲澤 内藤	① 管理職がそれぞれの教員と面談をし、学校経営ビジョンをもとに、校務分掌や立場を踏まえた取り組むべき課題を明らかにする。面談を通して、課題解決のための手だてや成果、目指す姿を共有する。 ② 学年間で授業公開を実施する。付箋などを使って意見交換・交流を図る環境をつくる。 ③ 部会間で授業公開をし合う。付箋などを使って意見交換・交流を図る環境をつくる。 ④ 校外研修（県外研修・5年経験者研修・10年経験者研修）で得た新たな知見、課題解決のための方法などを踏まえた研究授業を実施する。若手を育成するとともに、自らの資質・能力の向上を図る。	① 管理職がそれぞれの教員と面談をし、学校経営ビジョンをもとに、校務分掌や立場を踏まえた取り組むべき課題を明らかにすることで、課題解決のための手だてや成果、目指す姿を共有することができたか。 ② 学年間で授業公開をし合い、職員室に指導案を掲示し、付箋を貼って1週間程度見られる環境をつくることで、授業における工夫などを共有し、自らの資質・能力の向上を図ることができたか。 ③ 部会間で授業公開をし合い、職員室に指導案を掲示し、付箋を貼って1週間程度見られる環境をつくることで、授業における工夫などを共有し、自らの資質・能力の向上を図ることができたか。 ④ 校外研修（県外研修・5年経験者研修・10年経験者研修）で得た新たな知見、課題解決のための方法などを踏まえた研究授業を実施することで、若手を育成するとともに、自らの資質・能力の向上を図ることができたか。	職員 ① 3. 1 ② 3. 1 ③ 3. 1	学年間や担当者間での情報交換は、日頃から行われている。コロナ禍の中、さまざまな行事を簡素化したり、対策を講じたりしながら、よりよい学校づくりに向けて実践することができた。 道徳推進教師やプログラミング推進教師、専門教科の授業などの機会をつくることで参観する教員が多かった。道徳科の授業や外国語科の授業を参観したいと希望をもつ教員はいるが、自ら参観の機会をつくることは難しいと感じているようである。 各部会における指導案の検討・研究授業に参加し、自らの資質向上を図ることができる教師は多くいた。しかし、現職教育のテーマに沿った外部講師の講義を行うことが十分でなかった。	教員の力量向上のために、来年度は、今年度より参観の機会を多くしていきたい。 教職員のニーズや情報収集を教務主任がしっかり行い、現職教育のテーマに生かせるような講義を計画的に予定したり、先進校の情報や研修会の情報を教職員に知らせたりして、教師力の向上を図れるようにする。	
○業務改善に向けた職場環境の整備	・分掌の明確化と協力し合える体制づくり ・業務の精選	10	校長 山田	① 「学校」が有する仕事を明確にし、適正に分担する。 ② 提案事項によっては、事前に担当者会や運営委員会を行う。 ③ 報告・連絡・相談を、学年間、担当者間等で確実に行い、共通理解の下、チームで事にあたる。 ④ 行事の精選と内容の見直し、各自の職務に則った観点から職場環境の整備を行うとともに、仕事の効率化を図る。	① 仕事が特定の教職員に集中していないか。 ② 提案事項について、よく検討することができたか。 ③ 報告・連絡・相談体制が機能し、互いに協力し合えたか。 ④ 業務改善に向けた職場環境の整備が進んだか。	職員 ① 2. 8 ② 3. 0 ③ 3. 1 ④ 3. 0	「校務分掌等、仕事が適正に分担されていた」については、昨年度と比較すると改善が進んだと感じている職員がわずかに増えた。 協力体制や相談体制については、昨年度と比較すると「あまりできていない」と回答した教職員が10％に増えた。 「業務の精選が進んだ」については、30％近くが「あまり進んでいない」と回答している。	教職員間のコミュニケーションを大切にし、負担感のある職員をチームでサポートしていく。 部活動の活動時間について、豊山町内3小学校で見直しをする。 用務員・配膳員の勤務時間が1時間増えることで、教職員の業務を分担していく。 ミドルリーダーが核となり、必要に応じてチーム会議を行う。	
学校関係者評価（その他の意見・改善策等）									
＜ICTの活用について＞ ・今後、タブレット端末（ZOOM等）を活用した学習活動を工夫してほしい。 ・プログラミング教育について、家庭教育講演会で体験してみても楽しさが分かった。来年度以降、公開日などで保護者にプログラミングの授業を見せてほしい。 ＜あいさつについて＞ ・あいさつについて、できていないと感じている割合が、子どもに比べ保護者の方が高くなっている。地域では、子どもはよく挨拶を返してくれている。今年度は、年間を通してマスクをしているので、声が伝わりにくかったり表情が分かりにくかったりしているのも理由の一つであろう。保護者自身ももっと地域で子どもと関わるようにするとよい。保護者への働きかけが必要である。 ＜健康教育について＞ ・レジリエンスについて、外出自粛期間に家庭で話をするきっかけになってよかった。 ＜SCの活用について＞ ・SCについて、最初は敷居が高く感じたが、相談してみると雰囲気がよく話しやすかった。保護者が利用しやすくなるような工夫が必要である。 ＜生活指導について＞ ・子どもに指導するとき、子ども自身が「どんなことについて、なぜ指導されているのか」を理解できるような指導の仕方をしてほしい。						＜開かれた学校づくりについて＞ ・HPは記事が更新されたことが分からないため、閲覧しないことが多い。SNSは更新通知が届くため気軽に閲覧できる。公式SNS（インスタグラム、フェイスブック、ツイッターなど）を開設するなど、HPにアクセスしやすい工夫をしてほしい。 ・高等学校等では、SNSで情報発信がされていて、いろいろな情報を得られた。 ・写真だけでなく、動画も閲覧できると学校の様子（子どもだけでなく教師の姿など）が分かりやすい。SNSは比較的簡単に動画も掲載できる。高学年ほど学校の様子を家庭では話さなくなるため、HPの更新を多くしてほしい。 ＜その他＞ ・アンケートの評価値があまり低くなっていない。コロナ禍で内容の見直しができたのではないかと。できない中でやれることを工夫していることがよい。 ・昨年と比べて、児童アンケートの悪い評価が減っている。コロナ禍でマイナス思考になりがちであるが、子どもたちはプラス思考で学校生活を送っているのではないかと。 ・コロナ禍の中、細かな点まで配慮していただきありがたかった。			